

2018年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した競技規則改訂について



2018年2月19日

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

平成27年度よりJクイックハンドボールが実施され、競技規則も「Jクイックハンドボール競技規則」として定められた。小学生専門委員会では3年間の検証結果を踏まえ、平成30年度より競技方法の一部改訂を行うことが決定した。(公財)日本ハンドボール協会審判委員会では、提案の内容を受け、小学生専門委員会と協議の結果、下記の通り競技規則条文を定めた。

「競技規則書2018年版」(平成30年発行予定)における各条文の下に、小学生(U-12)用として<2018年度Jクイックハンドボール>という見出しをつけて、競技規則条文を掲載する。条文は2017年度のものを使用している。

<2018年度 Jクイックハンドボール 競技規則改定の概要>

第2条 競技時間 タイムアウト

2の1 成年・高校生のチームの競技時間はすべて、前後半各30分が標準である。休憩時間は10分が標準である。

中学生の標準の競技時間は前後半各25分である。休憩時間は10分が標準である。

小学生の標準の競技時間は「Jクイックハンドボール」のそれを標準とする。休憩時間は10分が標準である。「Jクイックハンドボール」を実施する際は、下記の通り行うものとする。

【注】IHF大会、大陸連盟大会または国内大会(小学生を除く)において、主催者の権限でハーフタイムの時間を決定できる。しかし、ハーフタイムの最長時間は15分までとする。

<2017年度Jクイックハンドボール>

2の1 Jクイックハンドボールを実施する場合は、競技時間を次のように定める。

- ・競技は3セット制で行い、競技時間はそれぞれ10分である。
- ・休憩時間は5分が標準である。
- ・延長戦については競技規則2:2に則り、前・後半で行う。
- ・各セットで「セット回数表示板」をオフィシャル席中央に掲示する。「セット回数表示板」はA4規格のサイズで、1から3の数字を明確に記入する。

<2018年度Jクイックハンドボール>

2の1 Jクイックハンドボールを実施する場合は、競技時間を次のように定める。

- ・小学生の標準の競技時間は、前後半各15分である。
- ・休憩時間は10分が標準である。

・延長戦については競技規則2:2 に則り、前・後半で行う。

2 の10 各チームは、正規の競技時間中の前半と後半に各 1 回ずつ、1 分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈 3）。

【注】 IHF 大会、大陸連盟大会、または国内大会（**小学生を除く**）において、主催者の権限で 1 分間のチームタイムアウトの申告回数を決定できる。しかし、その回数には最高 3 回までであり、かつ前半、後半（延長戦は除いて）それぞれにおいて最高 2 回までとする（競技規則解釈 3 を参照）。

<2017年度Jクイックハンドボール>

2 の10 各チームは、正規の競技時間中に1 回のみ、1 分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈3）。

<2018年度Jクイックハンドボール>(削除)

この条文をなくす。

第9条 得点

9 の 2 レフェリーが次に行うスローオフの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9 【注】を参照）。

得点後のスローオフの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（スローオフを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

<2017年度Jクイックハンドボール>

9 の 2 得点のあと、レフェリーが次に行うゴールキーパースローの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9 【注】を参照）。

得点後のゴールキーパースローの実施までに、各セットの終了合図があった場合は、（ゴールキーパースローを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

<2018年度Jクイックハンドボール>

9 の 2 得点のあと、レフェリーが次に行うゴールキーパースローの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9 【注】を参照）。

得点後のゴールキーパースローの実施までに、**前後半の**終了合図があった場合は、（ゴールキーパースローを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

第10条 スローオフ

10 の1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そ

して相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。競技の後半に両チームはサイドを交代する。競技の開始時にスローオフを行わなかったチームが、後半の開始のスローオフを行う。各延長戦の前には改めてコイントスを行い、上記10：1の条項を延長戦にも適用する。

<2017年度Jクイックハンドボール>

10 の1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。

各セットが終了するごとに、両チームはサイドを交代する。開始のスローオフも交互に行う。各延長戦の前には改めてコイントスを行い、競技規則2:2の条項を延長戦に適用する。

<2018年度Jクイックハンドボール>(削除)

この条文をなくす。

10 の2 得点の後は、得点をされたチームのスローオフによって競技を再開する(ただし、9:2の第2段落を参照)。

<2017年度Jクイックハンドボール>

10 の2 得点の後は、得点をされたチームのゴールキーパーが、**レフェリーの笛の後にゴールキーパー**スローを行うことによって競技を再開する(ただし、9:2の2段落を参照)。

<2018年度Jクイックハンドボール>

※2017年度と同様。

10 の3 (左右に約1.5 mを許容範囲として)コート中央からどの方向へもスローオフを行ってもよい。笛の合図から3秒以内にスローオフを行わなければならない(13:1a, 15:7の第3段落)。スローオフを行うプレイヤーは、少なくとも片足をセンターライン上に、そして他方の足をセンターライン上または自陣側(15:6)に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいななければならない(13:1a, 15:7の第3段落、競技規則解釈5を参照)。

スローを行うプレイヤーの味方のプレイヤーは、笛の合図よりも前にセンターラインを踏み越えてはならない(15:6)。

<2017年度Jクイックハンドボール>

10 の3 (延長戦も含めて)各セットの開始のスローオフはコート中央から行う。得点の後、得

点されたチームのゴールキーパーは、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールキーパーズローを行わなければならない。笛の合図から3秒以内にスローを行わなければならない(13:1a, 15:7の第3段落)。ゴールキーパーズローを行うゴールキーパーは、ゴールエリア内のどこからでもレフェリーの笛の後にスローを行うことができる。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズローを行ったと見なす。

<2018年度Jクイックハンドボール>(変更)

10の3 (延長戦も含めて) 前後半の開始のスローオフはコート中央から行う。得点の後、得点されたチームのゴールキーパーは、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールキーパーズローを行わなければならない。笛の合図から3秒以内にスローを行わなければならない(13:1a, 15:7の第3段落)。ゴールキーパーズローを行うゴールキーパーは、ゴールエリア内のどこからでもレフェリーの笛の後にスローを行うことができる。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズローを行ったと見なす。

10の4 (延長戦も含めて) 前後半の開始時のスローオフに際して、すべてのプレーヤーは自陣のサイドにいないといけない。しかし、得点後のスローオフに際しては、スローオフを行うチームの相手プレーヤーはコートのどちらのサイドにいてもよい。しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていないといけない(15:4, 15:9, 8:7c)。

<2017年度Jクイックハンドボール>

10の4 (延長戦も含めて) 各セット開始時のスローオフに際して、すべてのプレーヤーは自陣のサ

イドにいないといけない。この場合、スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていないといけない。(15:4, 15:9, 8:7c)

<2018年度Jクイックハンドボール>(変更)

10の4 (延長戦も含めて) 前後半開始時のスローオフに際して、すべてのプレーヤーは自陣のサイドにいないといけない。この場合、スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていないといけない。(15:4, 15:9, 8:7c)

第12条 ゴールキーパーズロー

12の2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで(ただし、15:5bを参照)、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパーズローを行う。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパ

ースローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない(15:4, 15:9, 競技規則解釈8:7c)。

<2017年度Jクイックハンドボール>

12 の2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで(ただし、15:5bを参照)、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパーズローを行う。ただし、得点された後のゴールキーパーズローはレフェリーの笛の合図の後に行わなければならない。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない(15:4, 15:9, 競技規則解釈8:7c)。

<2018年度Jクイックハンドボール>

※2017年度と同様。